

第三回 空道ワールドカップ 2025 ブルガリア遠征レポート

行徳支部 新出勝治

表題の件につきまして日本選手団の一員として遠征させていただきましたことを心より感謝申し上げます。

今回のワールドカップ（以下 WC）はマスターズとして初の国際大会ということでした。

私はマスターズ 45 歳以上 70kg～85kg のカテゴリーにて試合をさせていただきました。

それではマスターズ初の国際大会にフォーカスしてレポートさせていただきたいと思います。

【大会参加へのきっかけ】

1 月 11 日（土）の稽古前に遡ります。

加藤先生より「今回の WC にマスターズのカテゴリーが新設されたが出場意思はあるか？」と仰っていただきました。私には空道の修行を通じて 2 つの目標があります。

1 つ目は、入門以来シニア・マスターズを主戦場として戦って来ました。一度は一般部として試合を経験したいということ。2 つ目は海外で外国人と試合をしたいということです。

唐突に海外で外国人と試合が出来るチャンスが巡って来ました。

迷うことなく「出場意思あります。」と回答しました。選ばれるかは別の話であるのは理解の上、チャンスをいただけることを願って稽古に励みました。

約 1 か月後の 2 月 17 日（月）空道連盟より WC 出場の承認がされたことを加藤先生よりお知らせいただき正式決定の運びとなりました。

【日本出発～WC 試合まで】

7 月 2 日（水）午後 6 時：羽田空港に WC メンバーが集合しました。

全員集合して事務局長、狐崎団長をはじめとする先生方にご挨拶させていただいた時が試合以上に緊張したと振り返ります。

初めて会話をさせていただく方ばかりでしたので選手団の一員として早く溶け込まないとなあ、、、と焦っておりました。

そんな動揺を感じ取っていただいたのか、谷井主将・目黒選手・中上選手・小野寺選手の一般部選手から話しかけてくれ、ご挨拶を頂戴し気遣っていただきました。

言葉を交わすと遠く感じていた距離もグッと近くに感じ気持ちも楽になりました。

※お声がけいただきありがとうございます。とても嬉しかったです。



集合の際、スーツケース用に配布されたネームプレート。

KUDO JAPAN の下に自分の名前があることに感動しました。

WC マスターズ 45 歳以上 70kg～85kg トーナメントは総勢 6 名での戦いとなります。
今回の課題として自分自身の精神状態やコンディションを内省するよう心掛けました。
対戦相手のことは極力考えないようにしました。
機内で 7 月 3 日（木）を迎え、約 30 時間のフライトを過ごしました。

KATSUJI SHINDE Japan	
	56
TOMAS TRANTINA Czech Republic	52
DAVID ABELLAN CAMPILLOS Spain	60
FABRICE CARIO France	57
DAMIAN TIRKEY India	53
CARLOS EDUARDO ALENCAR CARVALHO Brazil	

1 回戦はシード。 2 回戦で対戦する可能性があった

チェコの選手が欠場した為、初戦はスペインの選手となりました。

長田塾長・加藤先生は 2 日前にブルガス入りされており、日本選手団到着をホテルの前でお出迎えいただきました。到着後、加藤先生より今回の試合時間は 3 分だと教えていただきました。
シニア・マスターズで 2 分間の試合時間に慣れている為、3 分間で戦うイメージをしながらホテルの部屋に入りました。
ずっと座りっぱなしで、やっと横になれると思ったら、そのまま気が付けば計量当日の朝になってました。



宿泊したホテルではサウナ・ウエイトルーム・ジャグジーがありました。
快適な時間を過ごすことが出来ました。

7月4日（金）

1 つ目の目標である一般部で試合をしてみたいという想いで過去エントリーした大会全て-250kg（170cm 79kg）でエントリーしております。今回も同様に-250kg でエントリー。

今回、マスターズ選手は年齢確認と体重測定のみで身長測定はありませんでした。

計量体重 76.1kg でクリア。その後は部屋でストレッチを繰り返し試合前日を過ごしました。

※計量後、谷井主将より国際大会は何かあるかわからない。

試合順など確認事項は小まめに行う事。

想定外の出来事にも動揺せず冷静に対処しようと発信がありました。



日本選手団、計量時の様子。

日本選手のパスポートチェックは貫禄たっぷりのジョージア支部長でした。

とても声が大きく、大柄なジョージア支部長。私のパスポートを確認し「Oh.マスターズ！」

と叫んで笑顔で肩を叩いてくれました。かなり先輩かと思いきや 42 歳と聞いて驚きの 10 歳年下。。

7月5日（土）

WC 大会初日、2 日間の大会ですが、マスターズは初日完結のトーナメントです。

当日の朝は 5 時頃目覚めました。試合は 56 試合目ということで開会式の 11 時から逆算して 14 時前後だから早く目覚めすぎたかな。。。と思いつつ、昨日の谷井主将発信通りまずは大会までの確認事項をしようと携帯電話で組手テクノロジーを開いてスケジュールを見てみました。

初日試合スケジュールを見るや否や、一気に目が覚めました！！

昨夜まで 56 試合目だった試合順が 3 試合目になっていました。

他の日本選手も試合順、対戦相手など変更されておりこれが国際大会かあ〜と思いながらも日本選手団では最初の試合となる 3 試合目ということで勝って弾みをつけたいと思いました。

朝食を一緒に食べていた谷井主将から「自分も試合早いのでホテルで一緒にアップして会場に行きましょう。」と誘っていただきました。

アップ場所のホテル駐車場には、試合順だけでなく対戦相手まで変更になった目黒選手も参加され一緒にアップさせてもらいました。

谷井主将・目黒選手と当てない軽いマスパーをしました。

2 人の動きに翻弄されながらも良い汗を流すことが出来ました。

アップには加藤先生も朝食後、お越しいただいて私のコンディションや動きの確認、試合前と言う事で普段以上に会話も多くしてもらい心身ともに仕上げていただきました。

後は試合をするだけです。

いよいよ開会式。これが終われば試合はすぐに来ます。

開会式入場の選手控えスペースで初戦の相手であるスペイン選手団を発見。

3名の選手団でした。年齢からして多分、この選手だろうなとすぐにわかりました。

身長は同じぐらいですが、がっちりした体格。

背中にはかなり色褪せた世界大会スペイン代表のゼッケン。

先生・仲間・今までの稽古、全てを信じて戦うだけと言い聞かせ気持ちを落ち着かせました。

そして試合。

日本選手団、最初の試合です。勝って弾みをつけたい気持ちで試合場に上がりました。

セコンドには加藤先生がついてくれました。

こんなに光栄で心強いことはありません。絶対に勝ちたい。勝てると思いました。

スペイン選手はサウスポーです。

外国人選手はガンガン攻めて来るという印象を持っておりました。

狐崎主審の「始め」で一気に圧力かけて来るかなと思いきや、前に出て来ない。

私が前に出ると出た分、バックステップで下がる。完全な先入観で「あれ？攻撃して来ない。」と戸惑いました。試合場のマットが滑りやすく感じたのでパンチ中心に攻撃をしましたが左のパンチをカウンターで上手く合されました。パンチに技術が高いと試合中に感じました。

本戦、一度もスペイン選手は自ら攻撃をして来ませんでした。

狐崎主審から注意を受けても自分からの攻撃を仕掛けて来ません。

本戦は引き分け、3分間の疲れは然程感じることはなく、この3分で勝負を決める気持ちで延長戦が始まりました。

延長に入ってもスペイン選手はカウンターを狙って自分から攻めてくることはありません。

私の攻撃に合され左パンチで効果を取られました。

左のパンチをディフェンス出来ないまま延長戦が終了。試合は敗れてしまいました。

3試合目で姿を消すことになり、絶大なるご支援をいただき送り出してくれた道場の皆様にとっても申し訳なく思いましたが、大会は始まったばかり暗い雰囲気は出さず切り替えて日本選手のサポートをとにかくやり切ろうと思いました。

程なく、「新出さ〜ん、次の次、試合入ってますよ〜。」と遠くから声が。。

帯広支部の小林さんから叫んでくれてました。

※代表の娘さんの父兄として来ていた小林さんはシニア選抜で優勝されている現役選手です。

試合順が表示される大きな掲示板に「新出さんの名前が出てますよ！！」という事で、慌てて試合の準備をして3位決定戦：20試合目の順番に間に合いました。

隣のコートで審判をされていた加藤先生も審判団交代のタイミングで、この試合もセコンドについていただきました。

日本選手団の合言葉「信じよう・楽しもう」をもう一度思い出し試合に挑みました。

フランス選手はオーソドックスで前に出て攻めて来るタイプ。

この試合はセコンドついていた加藤先生の指示を冷静に聞きことが出来、右パンチで効果を取り倒れたところを上からの絞めで1本勝ちすることが出来ました。

この試合の後、やはり初戦は雰囲気呑まれていたんだなと気付きました。

試合をしている景色が全然違いました。



この大きな掲示板に試合順が映し出されます。

小林さん教えていただき助かりました。ありがとうございます。

結果的に3位となり、勝って日本に帰れることへの安堵感が大きかったです。

初戦で試合した選手はスペイン支部長、次に戦ったのはフランス支部長だったようです。

両国の支部長と対戦出来たことも私にとってはとても貴重な体験であり、試合後は二人とも笑顔で健闘を称え合い清々し気持ちになりました。



真ん中が優勝したブラジルの選手。大きかったです。

左は準優勝のスペイン支部長。表彰式、3人とも申し合わせたかの青道着。

今回、初めて外国人選手と試合をして感じたことは、パンチ力の強さと組みの圧力に違いがありました。フィジカルの強さはマスターズと言えど持ち合わせております。

フィジカル差を埋めに行くことは重要だと感じたと共に普段の稽古で空道の技術向上に精進すれば十分に戦える手応えも掴めました。

【締めくくりとしまして】

日本選手団は初日、2日目と大活躍の結果で幕を閉じたWCとなりました。

第三回 空道ワールドカップ 2025 におきまして日本選手団の一員として参加させていただきま

したことを誇りに思います。

WC 出場のお話を下さいました加藤先生、参加のご承認いただきました空道連盟の皆様により感謝申し上げます。

この経験を活かせるようこれからも空道の修行に精進したいと思います。

ジュニア代表選手・ご父兄の皆様も期間中、とても良くしていただきありがとうございました。

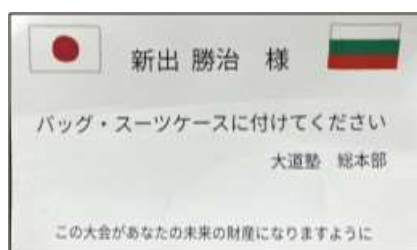
行徳・東中野支部の皆様の応援メッセージ心強かったです。

これからもどうぞよろしくお願いします。

日本出発の羽田空港でネームプレートと一緒にいただいたメッセージ。

人生において貴重な財産をいただいたブルガリア遠征となりました。

本当にありがとうございました。



押忍